

8

秘

本邦鹽業事情調

昭和六年七月

新務省殖産局



目次

一、本邦ニ於ケル鹽ノ需給概観

附表

(一)昭和四年度本邦鹽需給一覽表

(二)同年度地域別鹽需給調

(三)同年度鹽田面積、鹽生産高及生産費調

附、青島鹽ニ關スル調

二、本邦各地域鹽業概況

一、内地

(一)専賣制度ノ沿革概要

(二)生産狀況

- (三) 鹽ノ收納狀況
- (四) 輸移入方法
- (五) 輸移入狀況
- (六) 鹽ノ用途概況

附 表

- (一) 内地ニ於ケル鹽需給一覽表
- (二) 内地鹽生産見込高
- (三) 鹽内地需要見込額
- (四) 昭和四年度鹽製造高
- (五) 同年度專賣局購買鹽及自己輸入鹽ノ產地種類別移輸入實蹟
- (六) 昭和四年度曹達灰、苛性曹達及重炭酸曹達國別輸入比較並ニ内地需要ニ對スル各國別供給割合

- (七) 昭和五年度專賣局購買鹽ノ產地種類別移輸入豫定數量
- (八) 昭和五年度自己輸移入鹽ノ產地種類別移移入命令數量
- (九) 關東州、臺灣、青島鹽ノ内地ニ於ケル賣渡價格
- (十) 内地輸移入鹽仕出地別數量累年表

二、朝 鮮

- (一) 沿革概要
- (二) 生産狀況
- (三) 鹽ニ關スル制度概要
- (四) 官鹽ノ販賣狀況

附 表

(一) 朝鮮鹽生產及販賣調

(二) 朝鮮移輸入鹽仕出地別累年表

(三) 昭和五年度月別外鹽輸移入高表

(四) 昭和五年度港別產地別單價別輸移入高調

(五) 同年同取扱人別鹽輸移入許可及買收高

(六) 同年種別仕向地別鹽輸移出數量

(七) 昭和六年度外鹽輸移入豫定高

(八) 昭和五年度官營鹽田生產高及六年見込高調

(九) 昭和六年度鹽販賣豫定高調

(十) 朝鮮鹽生產費調

其ノ一 官鹽(天日鹽)

其ノ二 民鹽(在來煎熬鹽)

(一) 官鹽拂下價格及販賣價格

イ、昭和五年度官鹽主要地別拂下價格

ロ、昭和五年度主要地別鹽百斤當卸賣價格調

(二) 朝鮮昭和四年度鹽業豫算決算額

### 三、臺灣

(一) 沿革概要

(二) 生產狀況

(三) 販賣狀況

(四) 臺灣製鹽株式會社概況

附 表

- (一)臺灣鹽（天日鹽）生産及販賣高
- (二)昭和四年度臺灣鹽移輸出高及島内消費高調
- (三)昭和五年度臺灣鹽移輸出高及島内消費高見込調
- (四)昭和五年度臺灣ニ於ケル鹽田面積鹽生産見込高調
- (五)昭和六年度臺灣鹽受拂見込高
- (六)臺灣鹽生産費
- (七)昭和四年度臺灣島内消費鹽販賣高調
- (八)現行賠償價格（臺灣）
- (九)現行賣捌價格（臺灣）
- (十)昭和六年度内地移出鹽積出費

- 一、煎 熬 鹽
- 二、上 並 等 鹽

(出)臺灣昭和四年度鹽業豫算決算額

附、關 東 州

- (一)沿 革 概 要
- (二)生 産 状 況
- イ、芒 硝
- ロ、特 殊 鹽
- (三)販 賣 状 況

附 表

(一)關東州鹽（天日鹽）生産及販賣調

(二)關東州鹽輸移出仕向地別累年表

(三)昭和四年度關東州鹽輸移出高及州内消費高調

(四)昭和五年度同見込高調

(五)昭和四年度關東州鹽田面積及鹽生産高調

(六)關東州ニ於ケル鹽田面積鹽生産消費及輸出可能見込高調

其ノ一（昭和五年度）

其ノ二（昭和六年度）

(七)昭和五年度關東州天日鹽生産費調

(八)同 再製加工鹽生産費調

(九)昭和五年二月以降關東州天日鹽賣買價格調

(十)關東州天日鹽積出費調

(十一)大日本鹽業株式會社營業報告

五、樺太及南洋群島

本邦ニ於ケル鹽ノ需給概観



本邦ノ鹽需給狀態ヲ見ルニ内地朝鮮及樺太（生産ナシ）ハ其ノ生産額ハ常ニ需要ヲ充タスニ足ラズ之ニ反シ臺灣關東州ハ地域内ノ需要ヲ充タシテ尙豊富ナル餘力アリ、即チ

一、内地ニ於ケル鹽ノ需要總額ハ明治三十八年鹽專賣創始當時ハ年約十億斤ナリシガ其後人口ノ増加及諸産業ノ發達ニ伴ヒテ遞増シ昭和四年度ニ於テハ約十六億三千萬斤ニ達ス、然ルニ之ニ對シ内地産鹽高ハ約十億五千六百萬斤（昭和二、三、四年度平均）ニシテ約四億七千萬斤（昭和二、三、四、年度平均）ハ輸移入鹽ヲ以テ之ニ充ツルノ狀況ナリ

二、朝鮮ニアリテハ近年官營天日鹽ノ增收ニヨリ著シク生産増加シ鮮内生産高ハ約三億一千五十萬斤（昭和二、三、四、年度平均）ニ達シタルモ需要額ハ約五億斤ナルヲ以テ二億斤内外ハ關東州鹽青島鹽等ノ輸入（附表一参照）ヲ要ス

三、臺灣ニアリテ其ノ島内需要約七千三百萬斤（昭和二、三、四、年度平均）ニ對シ生産高約二億三千萬斤（昭和二、三、四、年度平均）ニシテ約一億五千七百萬斤ノ供給餘力ヲ有ス

四、關東州ニアリテハ州内需要ハ約三千七百萬斤（昭和二、三、四、年度平均）ニ對シ生産高約四億七百萬斤（昭和二、三、四、年度平均）ニシテ約三億七千萬斤ハ他ニ販銷ノ途ヲ覓メザルベカラズ（附表ニ參照）

五、樺太及南洋群島ニアリテハ殆ド鹽ノ生産ナク樺太ニ於テハ主トシテ漁業用鹽トシテ昭和四年度約三千六百萬斤ノ輸入アリ、南洋群島ニ付テハ其ノ需要寡少ナルヲ以テ特ニ問題視スルニ足ラズ

附表

(一) 昭和四年度本邦塩供給一覽表（單位百万斤）

地方別	生産高	需要高	輸移入高	持越高	輸移入高内詳			
					台湾ヨリ	關東州ヨリ	青島ヨリ	其他ヨリ
内地	一、七〇四	一、六八三	五五九	六四八	八五	一、三六	三三三	五
朝鮮	三八一	四四九	二二七	一一〇	—	一一九	二五五	五
台湾	二九八	七四	—	三一二	—	—	—	—
關東州	四一五	四一	—	五二〇	—	—	—	—
樺太	—	三六	三六	—	—	五	—	三一
其他	—	—	—	—	—	—	—	—
計	二、六八八	二、二八三	八二二	一、五九〇	—	—	—	—
								計
								五五九
								×三、一六
								二二七

備考

一、百万石以下四捨五入シタルヲ以テ合計ト一致セズ  
 一、X印ハ自己輸入塩ヲ内書シタルモノナリ

(二) 昭和四年度地域別塩需給調

台		報					地				
湾		解					域				
計	粉砕塩	煎熟塩	天日塩	計	食卓塩	粉砕塩	再製塩	計	煎熟塩	天日塩	種類
二七六、七八六	一	二八、〇二四	二九、七六二	三八、七九六	一、〇八	〇	三、五、〇五〇	三八、七九六	七、二五八	三、〇九六、三八	生産量
				二二八、九〇五	三〇					二二六、八七五	輸移入量
				一七九	二四		一四四			一一	輸移出量
一三〇、六二五	四、〇〇〇	二五、二八一	一〇、一四五	四四九、一五二	一一一	四七〇	五五、〇五〇		七、一五八	三三三、四六三	管内消費量
七四、〇六三		二、三七一	七、六三二	四四九、一五二	一一一	四七〇	五五、〇五〇		七、一五八	三三三、四六三	
三一、七三五	八、三七一	一五、九四四	二八七、四二〇	一一〇、二一三	四	八四				一一〇、一二五	翌年度ニ持越量
											備
											要

消費量中ニ再製塩  
粉砕塩等ノ原料塩  
ヲ含マズ  
管内及外輸入ノ天日塩  
ヲ原料トシテ生産ス

地域別	經營別	塩種別	塩田面積	塩生産高	一町歩當 塩生産高	百斤當 生産費	備考
内地	官營	天日塩	二、四四六	三、〇九六	一二六、五八九	三四九	
内地	民營	煎熱塩	二、一〇三	七、一五八	三三八、三三八	一、二一四	
内地	民營	計	四、五四九	一〇、二五四	二三〇、九七六	一、二一四	
關東州	民營	天日塩	一、九〇八	二、六九七	一四一、三八四	三〇九	
關東州	民營	煎熱塩	一、八四〇	二、八〇二	一五二、三〇〇	一、二六八	
關東州	民營	計	三、七四八	五、四九九	一四四、六八四	一、二六八	
通計	民營	煎熱塩	一、八、五四六	二、二六七、〇〇九	一二七、八〇九	一、九八九	

(三) 昭和四年度塩田面積、塩生産高及生産費調

地域別	經營別	輸移入量	輸移出量	消費量	貯蓄量	備考
内地	官營	三、〇九六	三、〇九六	三、〇九六	〇	
内地	民營	二、一〇三	七、一五八	二、二六一	〇	
内地	民營	五、一九九	一〇、二五四	五、三六五	〇	
關東州	官營	一、九〇八	二、六九七	一、九〇八	〇	
關東州	民營	一、八四〇	二、八〇二	一、八四〇	〇	
關東州	民營	三、七四八	五、四九九	三、七四八	〇	
通計	官營	三、〇九六	三、〇九六	三、〇九六	〇	
通計	民營	五、一九九	一〇、二五四	五、三六五	〇	

附、青島塩ニ關スル調

年度	鹽田面積	鹽產高	平均採産高	日本内地	朝鮮	各該其他	計	青島	内地輸入	内地輸入
大正十四年度	五、〇三二	一三三、三七七	二六、三〇七	一	一	一四七、七六七	一四七、七六七	一、三六〇	一	一
昭和元年度	五、〇三二	一三三、八二八	五三、八二二	一	一	一三三、八二二	一三三、八二二	一、〇〇〇	一	一
同二年度	五、五三〇	一四一、六二八	八七、〇二九	一	一	一四一、六二八	一四一、六二八	一、〇〇〇	一	一
同三年度	五、四三〇	一三五、〇〇〇	四七、〇〇〇	一	一	一三五、〇〇〇	一三五、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一
同四年度	五、四三〇	一四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一	一	一四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一	一

備考

- 一、本表ハ主として青島并備單民政部及專賣局出張員ノ調査ニシテ
- 一、埠頭ニ於ケル塩買買價格ハ並等原塩用ノ賣買價格トス。

本邦各地域盛業概況

## 一、内地

### (一) 専賣制度ノ沿革概要

内地ニ於ケル鹽専賣制度ハ明治三十七八年戰役ニ際シ主トシテ國費ノ財源ヲ得ル爲メト併セテ内地製鹽業ノ保護改善ヲ圖ルヲ目的トシテ行ハレタルモノナリ其後大正七、八年ニ至リ物價騰貴ノ影響ニヨリ鹽ノ買入價格並ニ回送費等ノ暴騰シタル爲之ニ應シテ賣渡價格ヲ引上グル時ハ國民生活ノ脅威ヲ一層激成スルノ原因トナルヲ慮リ政府ハ社會政策上ノ見地ヨリ收益主義ヲ改メ鹽専賣ニ依ル國庫ノ歳入ヲ豫期セザルノ方針ノ下ニ爾來收支相償ヲ標準トシテ内地製鹽業ノ維持改善ヲ本位トスル經營施設ヲ爲シツツアリ。

### (二) 生産狀況

内地ニ於ケル製鹽方法ハ鹽田ニ依ル煎熬製鹽ニシテ其ノ内地鹽ノ主要ナル産地ハ

瀬戸内海ニ面セル所謂十州地方（播磨、備前、備中、備後、安藝、周防、長門、阿波、讃岐、伊豫）トス。

鹽專賣創始當時ハ殆下全國海岸到ル所ニ製鹽地散在シ其ノ反別約八千町歩、從事人員約三萬人、製鹽高約十億斤ヲ算シタリシガ其後臺灣關東州ニ於ケル製鹽業ノ發展ニ伴ヒ内地製鹽地中比較的不良ナル個所ヲ整理スルコト二回（第一回ハ明治四十三年―四十四年、第二回ハ昭和四年―五年）ニシテ第一回ニ於テ反別一千七百餘町歩、人員一萬四千六百餘人、製鹽高一億七百餘萬斤ヲ整理シ、第二回ニ於テハ反別約一千町歩、製鹽高約一億五千萬斤ヲ減縮スルノ計畫ナリシモ、事實ニ於テハ反別ノ激減ニ拘ラズ比較的優良鹽田ノ残サレタルト一面製鹽方法ノ改善等ニヨリ却テ生産力増進シタル結果ハ現在略生産高十億斤ヲ持續シツツアルヲ現狀トス。

（三）鹽ノ收納狀況

製鹽業者ノ製造シタル鹽ハ自家用鹽（一ケ年一人ニ付二十斤一家ヲ通ジ三百斤以內）ヲ除キタル外ハ悉ク政府ニ納附スルモノトス、鹽ノ等級ハ其ノ含有スル鹽分（鹽化曹達）量ニ依リテ左ノ五等級ニ分ツ、即チ

一等鹽	鹽分	九〇%以上
二等鹽	同	八五%以上
三等鹽	同	八〇%以上
四等鹽	同	七五%以上
五等鹽	同	七〇%以上
		七五%未滿

最近製鹽法ノ進步ト嗜好ノ向上トニヨリ漸次品等ヲ高メ大正十年頃ヨリハ三等鹽本位トナリ更ニ最近ニ於テハ二等鹽本位ニ進メリ



收納シタル鹽ニ對シテハ地方ノ生産事情ヲ考慮シテ決定シタル賠償價格ニヨリ賠償金ヲ交附ス

昭和六年度ニ於ケル賠償價格左ノ如シ

第三區	第二區	第一區		賠償價格區	包裝別	等級別賠償價格(百斤当)				
		甲	乙			一等	二等	三等	四等	五等
宮城、石川、鹿児島、沖縄縣	愛知縣	徳島縣	兵庫、岡山、廣島、山口、香川、愛媛、大分、福岡、長崎縣	三十九粒以入	散	四、五〇	四、四一	三、七八	三、三三	三、〇五
			五十粒以入	塊	四、四七	四、〇七	三、七三	三、一八	三、〇〇	
				三十九粒以入	散	四、一七	三、七九	三、四五	三、〇〇	二、七二
				五十粒以入	塊	四、五七	四、一八	三、八五	三、四〇	三、一三
				三十九粒以入	散	四、六二	四、二三	三、九〇	三、四五	三、一七
				五十粒以入	塊	四、九三	四、五五	四、二二	三、七七	三、四八
				三十九粒以入	散	四、八八	四、五〇	四、一七	三、七二	三、四三
				五十粒以入	塊	四、二二	三、八四	三、五一	二、七四	二、四六
				三十九粒以入	散	四、七二	四、三三	四、〇〇	三、五五	三、二七
				五十粒以入	塊	五、〇七	四、六八	四、三五	四、〇〇	三、七二
				三十九粒以入	散	五、〇〇	四、六一	四、二八	三、八三	三、五五
				五十粒以入	塊	五、三九	四、九九	四、六六	四、二一	三、九三

#### (四) 輸移入方法

鹽ノ輸移入方法ハ政府ニ於テ毎年其ノ必要ニ應シ適當ト認ムル者ヲ指名シテ輸移入取扱ヲ命ジ輸移入地ニ於テ其ノ儘ヲ政府ニ購入スルヲ常態トス、此ノ外化學工業用鹽ニ付キテハ直接使用者ニ對シ自己輸移入ノ途ヲ開キ出來得ル限り廉價ニ當業者ノ希望スル鹽ヲ選擇輸移入セシメ居レリ

#### (五) 輸移入狀況

内地ニ於ケル輸移入鹽ハ專賣局購買鹽ト自己輸入鹽トニ分ツ

##### (1) 專賣局購入鹽

專賣局購買鹽ハ從來約八千乃至八千五百萬斤宛ヲ臺灣關東州青島ノ各地ヨリ購入シ來リシモ昭和五年度ヨリハ臺灣鹽業ノ現況ニ鑑ミ例年ノ購入額ノ約五割増ナル約一億三千萬斤宛ヲ購入スルコトトシ、關東州鹽ハ五年度八千五百萬斤ヲ購買ス

ル見込ニシテ、又青島鹽ハ大正十一年山東懸案解決ニ關スル條約ニ據リ大正十二年ヨリ向フ十五ヶ年間（昭和十二年迄）最高三億五千萬斤最低一億斤ノ範圍ニ於テ購買スルノ義務ヲ有ス昭和五年度ニ於テハ一億斤ヲ購買スル豫定ナリ

(四) 自己輸入鹽

自己輸入鹽即チ工業用鹽ノ輸移入ハ市價ニヨリ其ノ輸移入先等一定セズ

青島鹽ハ昭和二年以降自己輸入總量ノ約八割ヲ占メ最モ優勢ナリシモ近年關東州鹽ノ進出著シク昭和五年度見込ニ於テハ兩鹽略相匹敵スルニ至レリ

昭和五年度自己輸移入鹽見込數量及割合左ノ如シ

地方別	數量	割合
青島鹽	一五七、九一四 千斤約	五〇%
關東州鹽	一三四、六三〇	四三%

臺灣鹽	一〇、二〇〇	三%
其ノ他鹽	一一、〇〇〇	四%
計	三一四、七四四	一〇〇%

(六) 鹽ノ用途概況

大正九年度ニ於テハ内地總消費量ニ對シ食料用七〇%、工業用六%ナリシガ今其ノ増加ノ割合ニ付之ヲ全量ヨリ見ルトキハ大正九年度消費鹽總計ヲ一〇〇トセバ昭和四年度ノ指數ハ一三二ナル處工業用消費額ノミニ付ミレバ大正九年度ヲ一〇〇トスルトキハ昭和四年度ニ於テハ四一二ノ指數トナル狀況ナリ右ハ素ヨリ人口増加ニ基ク消費増加ニ依ルコトハ勿論ナルモ亦産業ノ發達ニヨリ工業用トシテ使用サルモノノ増加ニ依ルコト蓋シ大ナルモノアリ（工業用ハ主トシテ曹達工業ノ原料鹽トシテ用ヒラル）

昭和四年度ニ於ケル用途別消費ノ割合ヲ示スニ左ノ如シ

漬物用	約 二割七分
醬油用	・ 二割二分
味噌用	・ 一割四分
化學工業用	・ 二割

ヲ主ナルモノトシ其ノ他順ニ魚類鹽藏用、麵類製造用、家畜用、鑛業用、獸皮保存用、肥料用選種用等ナリ

(二)内地鹽生産見込高(内地專賣局調)

年 度	數 量
昭和五年度	九九六、〇〇〇 千斤
・ 六年度	九四三、〇〇〇
・ 七年度	九五一、〇〇〇
・ 八年度	九五九、〇〇〇
・ 九年度	九六八、〇〇〇

附表

(一) 内地に於ける塩需給一覽表

年 度	内地塩 收納高					輸移入塩購買高 (自己輸入ノ分ヲ含ム)					年 度 末 持 越 高
	内地塩	台湾塩	関東州塩	青島塩	其他塩	計	台湾塩	青島塩	其他塩	計	
昭和元年度	103,318	9,500	27,377	114,122	7,943	143,320	14,332	1,433	1,433	143,320	62,916
同 二 年 度	103,569	7,485	76,070	38,130	3,186	148,440	4,000	2,011	4,000	148,440	62,916
同 三 年 度	106,824	7,623	98,468	27,389	2,832	144,136	15,022	4,668	4,668	144,136	64,960
同 四 年 度	107,347	8,517	135,754	33,210	5,342	160,170	16,328	6,555	16,328	160,170	64,960
同 五 年 度	99,600	14,200	219,630	25,794	12,167	261,421	12,167	6,341	12,167	261,421	64,960

(二)内地鹽生産見込高(内地専賣局調)

年 度	數 量
昭和五年度	一〇四七、五五六 九九六、〇〇〇 千 斤
六年度	九五九、六八三 九四三、〇〇〇
七年度	九五七、〇〇八 九五十一、〇〇〇
八年度	九五九、〇〇〇 四五七、四八六
九年度	九六八、〇〇〇 八八九、三八五

年 度	昭 和 五 年 度	六 年 度	七 年 度	八 年 度	九 年 度
一般消費用	一、一七〇、二五五	一、一八三、三五三	一、一九五、九七〇	一、二〇八、六四二	一、三二一、九六二
指 数	一〇〇	一〇一	一〇二	一〇三	一〇四
食糧増産用	九七、六五八	九七、六五八	九七、六五八	九七、六五八	九七、六五八
輸移出用	二〇、一三四	二〇、一三四	二〇、一三四	二〇、一三四	二〇、一三四
工業用	三六八、八五九	四一七、七三一	四五六、六〇三	五〇〇、四七五	五〇九、三四七
指 数	一〇〇	一一二	一二四	一三六	一三八
計	一、六五六、九〇六	一、七一一、八七六	一、七七〇、三六五	一、八二六、九〇九	一、八四九、一〇一
指 数	一〇〇	一〇三	一〇七	一一〇	一一三

(三) 塩内地需要見込額 (内地専賣局額)

(四)昭和四年度鹽製造高

區分	數量	備考
鹽田製鹽	一、〇六四、二四九	收納鹽
其ノ他	九、三三六	
小計	一、〇七三、五八五	政府製造鹽（輸移入鹽ヲ原料トス）
再製鹽	一二、一六四	
精製鹽	三、〇〇〇	
食卓鹽	七〇〇	
小計	一五、八六四	
民間再製鹽	三七、八三九	政府ヨリ賣渡シタル原鹽ヲ用ヒテ再製シタルモノナリ
小計	三七、八三九	
小計	三七、八三九	



合

計

一、一二七、二八八

(五) 昭和四年度專賣局購買塩及自己輸入塩ノ産地種類別移輸入実績

區分	台		關		東州		青島		其他	
	計	並等	計	並等	計	並等	計	並等	計	並等
政府購買塩	5,833	1	5,833	1	5,833	1	5,833	1	5,833	1
自己輸入塩	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	5,833	2	5,833	2	5,833	2	5,833	2	5,833	2

(六) 昭和四年度、普通灰、苛性曹達及重炭酸曹達  
 國別輸入比較、内地需要ニ對スル各國別供給割合(單位英噸) (商工省調)

内地需要總額	普通灰		苛性曹達		重炭酸曹達	
	英噸	百分率	英噸	百分率	英噸	百分率
内地生産	四二、八九六、一一	三五・五	三二、九九六、六四	四三・四	二四、一四・二五	一・八
美國	一八、五〇二、二四	一四・三	一八、六九四、七三	二四・六	六六、五六七、一八	八四・二
北米各派國	一六、二八四、一〇	一三・五	三三、〇九四、二七	三九・〇	一、一四一・二六	一四・〇
支那	七、七九一、四四	六・五				
亞佛利加諸國	三五、二五三、三九	二九・二				
獨逸			一、五二八、八三	二・〇	八五、九七	〇・〇
露西亞			五五四、一四	〇・七		
其他			一九七、二一	〇・三		

毎年度少ク苛性曹達輸入アルトモ本表中ニ示ス程ニ非ラザルヲ以テ之レヲ計上セズ

產地	種類	輸移入豫定數量	百斤當門司倉入購買價格	摘要
臺灣	上等原鹽	五四〇〇〇	一、一三〇	散鹽
臺灣	並等原鹽	六、〇〇〇	一、〇七〇	同上
臺灣	煎蒸鹽	一、五〇〇	二、一八〇	八十斤叭入
關東州	計	一三〇〇〇		
關東州	並等原鹽	八、二〇〇	九四〇	散鹽
關東州	再製鹽	三、〇〇〇	二、〇七〇	八十斤叭入
青島	計	八五〇〇〇		
青島	並等原鹽	一〇〇〇〇〇	七一〇	散鹽

(七) 昭和五年度專賣局購買鹽ノ產地種類別移輸入豫定數量及各百斤當ノ購買價格

合計	三一五〇〇〇
	×一五〇〇〇〇

備考

一、輸移入豫定數量欄×印ハ前年度命令條件ニテ移入ヲ承認シタルモノノ

内書ニシテ、百斤當購買價格欄×印ハ右價格ナリトス

(八)昭和五年度自己輸移入鹽ノ產地、種類別輸移入命令數量

地方別	種類別	數量	備考
臺灣	並等原鹽	一〇、二〇〇 千斤	
關東州	特種上等及並等原鹽	三五、三〇〇	
	並等原鹽	四〇、三二〇	
	洗滌鹽	一四、九一〇	
	洗滌原鹽及並等原鹽	四四、一〇〇	
	計	一三四、六三〇	
青島	並等原鹽	八六、三一四	
	並等原鹽及	×二、〇三四	
	等外原鹽	七一、六〇〇	

種別	列產地	元賣		捌人賣		散賣		輸送費用及特別用途賣	
		六十斤以上	五十斤以下	六十斤以上	五十斤以下	六十斤以上	五十斤以下	六十斤以上	五十斤以下
上等原塩	台湾	490	498	456	515	480	525	196	168
		475	484	441	500	465	510	180	155
中等原塩	台湾	475	484	441	500	465	510	180	155
		475	484	441	500	465	510	180	155
再製塩	開東州	475	484	441	500	465	510	180	155
		475	484	441	500	465	510	180	155
煎然塩	台湾	475	484	441	500	465	510	180	155
		475	484	441	500	465	510	180	155
上等原塩	青島	475	484	441	500	465	510	180	155
		475	484	441	500	465	510	180	155
中等原塩	青島	475	484	441	500	465	510	180	155
		475	484	441	500	465	510	180	155
再製塩	開東州	475	484	441	500	465	510	180	155
		475	484	441	500	465	510	180	155
煎然塩	台湾	475	484	441	500	465	510	180	155
		475	484	441	500	465	510	180	155
上等原塩	台湾	475	484	441	500	465	510	180	155
		475	484	441	500	465	510	180	155

(九) 關東州、台湾、青島塩ノ内地ニ於ケル賣渡價格(現行)

×印ハ前年度命令條件ニテ輸入ヲ承認シタルモノニシテ内書トス

備考

獨逸	一五七、九一四
威海衛	二、〇三四
合計	三、一四、七四四
粗製鹽	五、二〇〇
原鹽	六、八〇〇
合計	×二、〇三四

(十) 内地輸移入塩仕出地別累年表 (單位: 千斤)

年度	政府購買塩				自己輸入塩				合計				
	台湾	関東	青島	其他	台湾	関東	青島	其他	台湾	関東	青島	其他	計
昭和九年	九二五	八二五	六四二	一三五	三三〇	三九四	九四二	五四四	三三〇	三九四	九四二	五四四	四〇〇
同	割合 三七	三三	三二	三〇	一	二二	二六	五一	一〇	二二	二九	二八	二〇
二年	七四八	七三三	八〇二	二七	四七四	三六六	三二九	七二九	七四八	七三三	八〇二	二七	四〇〇
同	割合 三七	三三	三二	三〇	一	二二	二六	五一	一〇	二二	二九	二八	二〇
三年	七六六	七九八	七五三	一一八	一八四	二〇〇	二〇四	三九	一八	一〇	一八	一五	一〇
同	割合 三七	三三	三二	三〇	一	二二	二六	五一	一〇	二二	二九	二八	二〇
四年	八二二	七九八	七五三	一一八	五八五	五五九	五二四	五二	一六	二一	五八	五	一〇〇
同	割合 三七	三三	三二	三〇	一	二二	二六	五一	一〇	二二	二九	二八	二〇
五年	八二二	七九八	七五三	一一八	五八五	五五九	五二四	五二	一六	二一	五八	五	一〇〇
同	割合 三七	三三	三二	三〇	一	二二	二六	五一	一〇	二二	二九	二八	二〇
計	三〇,〇〇〇	二八,〇〇〇	二七,〇〇〇	一七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

同	年	度	政府購買塩	自己輸入塩	合計
四一	三	三	四一	三	四一
二七	四	四	二七	四	二七
三二	五	五	三二	五	三二
三〇	六	六	三〇	六	三〇
二〇	七	七	二〇	七	二〇
一〇	八	八	一〇	八	一〇
三	九	九	三	九	三
四三	一〇	一〇	四三	一〇	四三
五〇	一一	一一	五〇	一一	五〇
四	一二	一二	四	一二	四
一〇〇	一三	一三	一〇〇	一三	一〇〇
一一	一四	一四	一一	一四	一一
三六	一五	一五	三六	一五	三六
四八	一六	一六	四八	一六	四八
二	一七	一七	二	一七	二
一一〇	一八	一八	一一〇	一八	一一〇

## 二、朝鮮

### (一)沿革概要

古來朝鮮ニ於テ消費スル鹽ハ専ラ朝鮮ニ於テ製造セララルル煎熬鹽ヲ以テ充當シ來  
 リンガ明治三十六年頃ヨリ漸次安價ナル支那天日鹽ノ輸入ヲ誘致シ逐年其ノ數量  
 ヲ増加スルニ至レリ依テ時ノ當局者ハ明治四十二年ヨリ平安南道廣梁灣及京畿道  
 朱安ニ於テ天日鹽生産ノ目的ヲ以テ鹽田ヲ築造セリ其後第二次第三次<sup>計畫</sup>以テ鹽  
 田ヲ増築シタリ

### (二)生産狀況

昭和四年度官營天日鹽ハ鹽田面積二千四百四十六町步生産高三億九百六十三萬八  
 千余斤ヲ算スルノ狀況ナリ又在來ノ煎熬製鹽法ハ燃料及勞力ヲ要スルコト比較的  
 多ク從ツテ生産費ノ高價ナルヲ免レズ爲メニ安價ナル外鹽ノ壓迫ニ耐ヘズ漸次其

ノ反別モ減少シ昭和四年度ニ於テハ大正九年度ニ比較シ約六割ヲ減少シ二千百三町歩其ノ生産高ハ七千百十五萬八千斤トナリタリ既チ反別ニ付テハ天日鹽田及煎熬鹽田ヲ合セ四千五百四十九町歩其ノ生産高三億八千七十九萬六千余斤ナリ尙朝鮮ニ於ケル再製鹽ハ大正九年以降從價三割ノ關稅ノ保護ヲ受ケ來リシガ安價ナル天日鹽ノ爲メ漸次製造者減少シ昭和四年度ニ於ケル製造高五千五百五萬斤ニ過ギザルノ狀況ナリ

### (三) 鹽ニ關スル制度概要

大正九年關稅制度統一以前ニ於テハ專ラ朝鮮總督府ノ財源ニ資スル目的ヲ以テ舊韓國政府時代ト同率ナル從價七分五厘ノ稅率ヲ課シタルガ關稅制度統一ノ際國內鹽業ノ保護助長ノ目的ヲ以テ當時ノ天日鹽ノ到着價格百斤五十錢ノ二割ヲ標準トシテ從量稅每百斤十錢トシ其他ハ品種ニヨリ價格不同ナルヲ以テ從價三割トナシ

タリ、之レ即チ鹽關稅ノ特例ナリ。然ルニ此ノ特例ハ昭和五年三月三十一日限り廢止セララル事トナリタルヲ以テ此際何等カノ對策ヲ講ゼザレバ鮮內鹽業ノ蒙ル影響甚大ニシテ殊ニ從來民營ナル煎熬鹽業ノ如キハ其ノ存立ヲ脅サルヲ以テ政府ハ鹽業ノ保護並助長、鹽價ノ統制、需給ノ調節、配給ノ即滑、財源ノ確保等ノ目的ヲ以テ昭和五年四月一日ヨリ即ノ輸入管理ヲ行フコトトナリタリ。即チ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ノ外輸入スル事ヲ禁ジ輸入セラレタル即ハ政府之ヲ買收シテ之ヲ販賣スルコトトナシタリ。

### (四) 官鹽ノ販賣狀況

官營天日鹽田生産鹽ハ大正六年度迄ハ元賣捌人一人ヲ指定シ販賣ヲ委託セシメタリシガ大正七年度ヨリ之ヲ廢止シテ政府ノ直營ニ移シ各主要地ニ特約販賣人ヲ設置シテ（現在五十二名）之ニ販賣セシムルコトトナシタリ。而シテ從來ハ鹽田渡



價格ヲ定メ之ニ引渡地迄ノ運賃其他ノ附帶實費ヲ加算シテ賣渡シタルモ最近生産數量増加シタルヲ以テ鮮内各地ノ鹽ノ供給ヲ圓滑ナラシムルト共ニ鹽價ノ騰貴ニ資シ又一面販路ノ擴張ヲ圖ル爲メ昭和三年九月ヨリ鹽ノ集散地タル各主要港ノ市況ヲ考察シテ各地別ノ鹽價ヲ決定シ之ニ依リ賣渡ヲ爲スコトトナシタリ。

附表  
(一)

朝鮮鹽生産及販賣調 (内地專賣局調)

年 度	鹽 田 面 積		鹽 生 産 高		鹽 田 一 畝 當 年 均 産 産 高		官 賣 價 (百 斤 當)
	官營天日鹽	民營煎熬鹽	官營天日鹽	民營煎熬鹽	官營天日鹽	民營煎熬鹽	
昭和元年度	二四四六	二二八二	四七二八	一五五〇九五	六三、四〇八	二九、四二七	一一一八
二年度	二四四六	二〇六八	四、五一一	一八、九五〇	七四、七九六	二八、〇一七	八八八
三年度	二四四六	二一七二	四、六一八	二五、七四九	一〇五、七四〇	二六、五八四	六四〇
四年度	二四四六	二一〇三	四、九四九	三〇、九六三	一二六、五八九	三三、八二八	六〇七
五年度 (見込)	二四四六	二一〇〇	四、五四六	三三、三九〇	九五、〇〇〇	二六、二〇〇	
			計	計	計		

(三) 朝鮮移輸入塩仕出地別累年表 (單位千斤)

年別	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年
關東州	一二二,四四一	一七八,七七七	一二六,〇二〇	一三四,五三二	一一九,三六〇
山東	一〇一,一四〇	八〇,八九六	九七,七五〇	九四,九二六	一〇一,八八七
青島	六九	一五,二八八	四四,六五四	三七,四九五	五六,二八
台湾	三三,七一七	一二,六七六	六,一六〇	一	一
其他	二九九	二四,〇六	五,五四五	一一三七	三〇
合計	二五六,六六六	二九〇,〇四三	二八〇,一三九	二六八,〇九〇	二二六,九〇五

元山	益山	木浦	郡山	仁川	鎮南浦	新義州	地方別
							月別
五〇五〇	—	四九	—	六〇九	—	三四三四	四月
—	—	一〇〇	—	三四五七	一七四	五〇二七	五月
—	—	三四五	二八二	一〇〇六	一八三二	三五五四	六月
五九三二	一五〇三	九三	二〇二五	三五四八	二五四七	一四四五	七月
—	五〇五	六六二	一六三二	九五七	—	四四四三	八月
—	一六二八	一八五七	四〇八〇	七九四四	三〇七六	二八五五	九月
—	一六四七	三九五	二二一〇	六三三七	一〇一一	三〇六九	十月
—	八九七二	一六二	四三三三	二五五	—	一三九	十一月
五五二	九九三	—	五三四	一九三二	—	—	十二月
—	—	—	—	—	—	—	一月
—	—	—	一九〇	二二〇	—	—	二月
三四〇三	五五六	三〇	四七〇	二二八	—	—	三月
一五八九七	六二六〇	三九三二	二二六〇二	五七、四七七	一〇、〇八一	二二七五八	計

(三) 昭和五年度月別外塩輸移入高表 (單位千斤)

計	清 津	地方 別	月 別
		四月	一
五月	一	一〇九八	
六月	一	八四二	
七月	三九六	三三〇	
八月	一	三三五	
九月	一	九八九	
十月	一	二八〇	
十一月	一	七四二	
十二月	三九五	一九八	
一月	一	一	
二月	一	三三〇	
三月	一五三	二二五	
計	八三五	二〇三六七一	

備考  
二十斤以下四捨五入之ヲ以テ合計ト一致セズ

(四) 昭和五年度港別産地別単價別塩輸移入高表

港 別	産地 等級	單 價	數 量	金 額	輸移入 年月	摘 要
嶺南浦	計	四六〇	一〇、〇八一	四七、六八一	〃	八月
		四八〇	四、一八九	一九、一五四	〃	六月
		五〇〇	一、二〇〇	六、〇〇〇	〃	〃
		四八〇	五一四	二四、六九	五年四月	
新義州	計	四五六	二二、七五八	一〇九、二五八	〃	九月
		四五〇	九、五五四	四二、九九三	〃	六月
		四五〇	四、七四三	一九、七三一	〃	〃
		五五〇	八、四六一	四六、五三五	五年四月	





港別	輸移入取扱人	輸移入				計
		山東省天日塩	關東州天日塩	青島天日塩	台湾天日塩	
新義州	鹽子鹽業公會		一、三五〇〇 * (九二)			一、三五〇〇 * (九二)
〃	杏木塩業株式會社		一〇、二五八 * (七五五〇)			一〇、二五八 * (七五五〇)
計			二、三、七五八 * (八四六一)			二、三、七五八 * (八四六一)
鎮南浦	共同社代表眞室奎	一〇、〇八一 (一、七四一)				一〇、〇八一 (一、七四一)
仁川	結城 確次	五、五四〇 (五、五四〇)				五、五四〇 (五、五四〇)
〃	松永 源次郎	一、二九〇 (一、二九〇)				一、二九〇 (一、二九〇)
〃	下川 益一	九九四 (九九四)				九九四 (九九四)
〃	崔炳 燕	一、〇三〇 (一、〇三〇)				一、〇三〇 (一、〇三〇)
計						一、〇三〇 (一、〇三〇)

(五) 昭和五年度港別取扱人別塩輸移入許可及買收高 (單位千斤)





總計	山東省天日鹽	輸	一〇八、六〇四 (一、二、七〇三)
	閩東天日鹽	移	八、二五五 七三、八四五 (八、四六一)
	青島天日鹽	入	一一、二一一
	台灣天日鹽	密	一〇、〇一一
	計	續	八、二五五 二〇三、六七一 (二、一、六四)

備考

一 新義州・印内書ハ許可ニシテ政府ニ於テ買收セサルモノ  
 二 其ノ他ノ内書ハ許可ニシテ買收セルモノ  
 三 十斤以下四拾五入ヒルヲ以テ合計ト一致セズ

(内) 昭和五年度種別仕向地別鹽輸移出數量

種別	仕向地	食卓鹽	精製鹽	再製鹽	天日鹽	計	摘要
大連	大連	四三八九斤	一三三斤			四五二斤	
長春	長春	三二二				三二二	
奉天	奉天	二五四八				二五四八	
龍井村	龍井村	九二六				九二六	
間島	間島	八九六				八九六	
安東	安東	三七七五	四〇〇			四一七五	
浦石河	浦石河	一、〇七四				一、〇七四	
營口	營口	一七				一七	
ハルビン	ハルビン	三三				三三	

所別	輸移入豫定數量
新義州	二三、〇〇〇 千斤
鐵南浦	八、〇〇〇
仁川	八二、〇〇〇
群山	二八、〇〇〇
木浦	三、〇〇〇
釜山	七〇、〇〇〇
元山	一二、〇〇〇
清津	九、〇〇〇
計	二三五、〇〇〇

(七) 昭和六年度外匯輸移入豫定高

計	上 海	旅 順	香 港
一四一七九	六六	一三三	二六四
九六〇	一三三	三〇	三九七

備考

販賣豫定高ト符合セザルハ持越監アル關係ナリ

(凡) 昭和五年度官營鹽田ノ生産高及六年度見込高

鹽田別	六年度		割合
	採鹽豫想高 千斤	生産高 千斤	
朱安	一九、二九二	一八、五六三	七、六六
南洞	三三、〇〇〇	三一、六二二	一三、〇六
君子	四九、四五〇	四一、二一一	一七、〇二
廣梁灣	七九、三一〇	八七、七六五	三六、二四
徳洞	二四、〇八四	二六、五〇二	一〇、九四
貴城	一四、七五一	一六、二六四	六、七二
南市	一七、三六〇	二〇、二四〇	八、三六
計	二三七、二四七	二四二、一六七	一〇〇、〇〇

備考

一、本表數字ハ採鹽高ニシテ實收高ハ約一割五分ヲ控除シタルモノトス

(九) 昭和六年度鹽販賣豫定高調(單位千斤)

所別	朝鮮鹽	輸移入鹽	計
新義州	一三	二三	三六
鎮南浦	六七	八	七五
仁川	七〇	六五	一三五
群山	七	二五	三二
木浦	一五	四	一九
釜山	四	七〇	七四
元山	一二	一二	二四
清津	一三	一二	二五
計	二〇一	二一九	四二〇

昭和六年度鮮内鹽消費推定高ハ本表數字ニ在來煎熬生産見込高約六五、〇〇〇千斤ヲ加算シタルモノナルモ昭和五年度分調査未了ニ付便宜販賣豫定高請ヲ掲記セリ

(十) 朝鮮鹽生産費調

其ノ一 官 鹽 (天日鹽) 生産費 (百斤當)

費 目 昭和四年度 昭和五年度 插 要

製 鹽 費 一七七 厘 二二二 厘

鹽 夫 給 一一〇

鹽 田 擔 當 員 給 料 二二五

鹽 田 修 理 費 二二二

器 具 機 械 費 九

雜 費 四

燃 料 費 一

製 鹽 加 給 費 七

備考

貯蔵及回送歩減一割五分ヲ控除セルモノニ依リ算出ス

管理費	俸給	應費	雜給雜費	修繕費	分析試驗費	貯庫借料 其ノ他	計	固定資本利子	合計
六〇	二〇	五	三〇	四	一	一	二三七	一一二	三四九
七二					一	一	二八四	一三一	四一五

資本臺帳總價格六、二二二五、三五三圓ニ依レリ

其ノ二 民 費 (在來煎熬費) 生産費 (百斤當)

費目	昭和四年度		昭和五年度		摘要
	金額	百斤當	金額	百斤當	
勞銀	四七七	四七七	四五〇	四五〇	從來燃料ハ主トシテ松葉類ヲ 使用セルモ近時ハ石炭ヲ使用 スルモノ増加セル關係上昭和 三年度ニ比シ四年度五年度共 ニ燃料費ヲ著シク遞減セリ
燃料	四二九	四二九	四二九	四二九	
器具	七五	七五	七五	七五	
損耗	一三六	一三六	一三六	一三六	
資本利子	九七	九七	九七	九七	
計	一、二一四	一、二一四	一、一八七	一、一八七	

摘要

從來燃料ハ主トシテ松葉類ヲ  
 使用セルモ近時ハ石炭ヲ使用  
 スルモノ増加セル關係上昭和  
 三年度ニ比シ四年度五年度共  
 ニ燃料費ヲ著シク遞減セリ

(註) 官鹽拂下價格及販賣價格

(1) 昭和五年度官鹽主要地別拂下價格

主要地別

拂下價格

五年五月以降  
厘

新 義 州	鎮 南 浦	仁 川	群 山	木 浦	釜 山	元 山	清 津
六一〇	六五〇	六五〇	八〇〇	八一〇	七五〇	七八〇	八三〇





清 津	元 山		登 山		地 別 別
	元	山	登	山	
九七六	一〇三〇	九七〇	九五〇	九七〇	五月
一〇五〇	一〇八〇	九六〇	九五〇	九七〇	六月
八六〇	八九〇	七九六	七九七	八一七	七月
八六〇	八九〇	八〇六	八〇〇	八二〇	八月
八六〇	八九〇	八〇一	七七〇	七九〇	九月
八七〇	八九〇	八〇六	七七〇	七九〇	十月
八七〇	八九〇	八二〇	七六〇	七八〇	十一月
八七〇	八九〇	八一三	七六〇	七八〇	十二月
					摘要

(三) 朝鮮昭和四年度鹽業豫算決算額

經常部

歳入 一、六〇三、四八九 圓 七六〇

内 譯

鹽業收入 一、六〇二、九二四、五一〇

雜收入 五六五、二五〇

歳出 一、四六二、五五三、一五〇

内 譯

俸給 七二、六七九、四四〇

事業費 一、三八九、七一三、七一〇

諸支出金

一六〇〇〇〇

差益

一四〇、九三六、六一〇

外ニ臨時部

歳出

七八、五〇九、三九〇

内譯

營繕費

四七、五九二、六五〇

臨時朝鮮語獎勵費

二四〇、〇〇〇

臨時特別手當

八一四、七四〇

災害費

二九、八六二、〇〇〇

### 三、臺灣

#### (一)沿革概要

臺灣ノ鹽ハ清朝時代既ニ政府ノ專賣ナリシガ明治二十八年我が領有トナリタル際  
 一時專賣制ヲ廢止シタリシガ安價ナル支那鹽ノ輸入ニ依リテ島内ノ鹽業振ハズ各  
 地ノ鹽田荒廢ニ歸セントシ鹽價ノ變動甚ダシク消費者ノ苦痛大ナルモノアリタル  
 ヲ以テ我政府ハ明治三十二年五月再ビ專賣制度ヲ實施スルニ至レリ

#### (二)生産状況

明治三十二年專賣制度實施當時ニ於テハ鹽田面積二百町步其ノ産額一千九百萬斤  
 ニシテ當時ノ島内需要年額三千四百萬斤ニ對シ僅ニ其ノ半額ヲ充タスニ過ギザリ  
 シガ爾來極力荒廢鹽田ノ復舊ヲ圖ルト共ニ新ニ鹽田ノ擴張ヲ獎勵シタル結果昭和  
 四年度ニ於テハ鹽田面積二千九十餘町步産鹽年額天日鹽二億六千九百七十六萬二

千斤、煎熬鹽二千八百萬斤計二億九千七百七十八萬六千斤ニ達シ其ノ三分ノ二以上ヲ島外ニ移輸出シ得ルノ盛況ヲ呈スルニ至レリ

### (三) 販賣狀況

製鹽業者ノ製造シタル食鹽ハ總ベテ之ヲ一旦政府ニ收納ス（附表七現行賠償價格参照）一般食鹽ノ販賣機關ハ鹽ノ元賣捌人（全島八十五人）小賣人（全島二千八十四人）ノ二階級ナリ元賣捌人ハ專賣局ヨリ食鹽ヲ買受ケ小賣人ニ卸賣ス小賣人ハ之ヲ直接需要者ニ販賣ス尙外ニ特殊食鹽元賣捌人及特殊食鹽小賣人アリテ専ラ精製鹽ノ販賣ヲ爲ス特殊食鹽元賣捌人十五名、特殊食鹽小賣人三百五十九名ナリ右ノ外石鹼製造、醬油釀造、味噌製造、魚類及海獸鹽藏、獸皮保存、選種、瀝水器曹達工業並ニ再製鹽、煎熬鹽原料ノ如キ特別ノ用途ニ使用スル食鹽ニ付テハ一回買受量一萬斤以上ニ限り政府直接需要者ニ對シテ特別定價ヲ以テ賣渡ス

内地移出鹽ハ大日本鹽業株式會社ヲシテ一手ニ之ヲ取扱ハシメ會社ハ之ヲ内地專賣局ニ納附ス而シテ内地工業家ノ自家用鹽ニアリテハ專賣局ノ移入許可通知アリタルモノノミニ對シ直接賣渡スモノナリ

朝鮮移出ニ就テハ從來釜山ノ鹽商許發光三郎渡邊幸吉ノ兩人ニ賣渡シタリシモ現在ニ於テハ特定ノ取扱人ヲ設ケズ

露領沿海州輸出ハ之レ亦特定取扱人ヲ設ケザルモ現在ニ於テハ大日本鹽業株式會社及臺灣製鹽株式會社之ガ取扱ヒヲ爲ス香港其ノ他ノ輸出ニアリテハ特定取扱人ヲ設ケズシテ廣ク希望者ニ賣渡シ居ルノ狀況ナリ

### (四) 臺灣製鹽株式會社概況

大正七、八年ニ於テ内地鹽大不足ヲ來シタル際臺灣ハ豊富ナル鹽田適地アルヲ以テ急速ニ鹽田ノ擴張ヲ行ヒ母國ノ鹽不足ヲ緩和スルノ使命アルヲ感ジ茲ニ政府ハ

全島ノ有志ニ製造會社設立ヲ奨メ依テ大正八年七月資本金二百五十萬圓ヲ以テ臺灣製鹽株式會社ノ設立ヲ見タリ

會社ハ現在天日鹽田五百四十三町步、鹹水採取鹽田百八十九町步及煎熬鹽工場一ヶ所ヲ有シ天日鹽及煎熬鹽ノ製造並島内消費煎熬鹽ノ運送ヲ業トス近年臺灣鹽ノ島外商況著シク惡化シ特ニ煎熬鹽ノ賣行頗ル困難ヲ感ジタル爲メ勢ヒ之ガ製造ノ手控ヲスルノ已ムナキニ至レリ

附表  
(一)

台灣鹽(天日鹽)生産及販賣調

(内地專賣局調)

年度	鹽田面積		鹽生産高		平均鹽生産高		島内消費及輸移出高			島内販賣塩價格			内地移入塩價格										
	積	面	高	産	均	平	島内	内地	輸出	政府賣渡	本賣場	小賣	船來價格	門司購買價格									
大正十四年度	二,二二二	町	二八〇,三三四	千斤	一二三,一一二	斤	六九,三三〇	千斤	一七,五五五	千斤	二〇,〇五〇	千斤	二五,三三三	千斤	二五,〇七八	千斤	一五〇	斤	二二〇	斤	二二九	斤	
昭和元年	一八三二	町	三三五,五二二	千斤	一三三,一〇〇	斤	六九,八五	千斤	七五,三三	千斤	二九,五〇	千斤	二二,九九	千斤	一六,八七九	千斤	二〇九	斤	二三〇	斤	二五五	斤	
二年度	一七九二	町	一八九,三三三	千斤	一〇五,五九五	斤	七四,〇〇	千斤	七七,五八〇	千斤	七,九五〇	千斤	一四,九九八	千斤	一七,五三八	千斤	二〇九	斤	二三〇	斤	二五五	斤	
三年度	一六七六	町	二〇四,三〇三	千斤	一三三,八三九	斤	七〇,二七	千斤	七五,三六〇	千斤	—	千斤	—	千斤	一四,五五七	千斤	二〇九	斤	二三〇	斤	二五五	斤	
四年度	一六六五	町	三九七,七八八	千斤	一七八,八五二	斤	七四,〇〇三	千斤	一六,六三五	千斤	—	千斤	—	千斤	三二,一七三	千斤	二〇九	斤	二三〇	斤	二五五	斤	
五年度	—	町	—	千斤	—	斤	—	千斤	—	千斤	—	千斤	—	千斤	—	千斤	—	—	—	—	—	—	—

備考

一、島内販賣塩價ハ全部並等散塩價格トス又同欄中大正十四年度ノ元賣捌價格ハ塩務支館ヨリ請賣人ニ賣渡ス價格ヲ掲記ス

二、船乗價格欄以下ハ一ケ年度中其ノ異動アリタルモノハ最終ノ調査又ハ決定ニ依ル

三、本表ハ主トシテ台湾總督府專賣局ノ調査ニ依ル

(二) 昭和四年度台湾塩移輸出高及島内消費高調

翌年度(持越高)	島内消費高				計	摘要
	露領(海外方面)輸出高	朝鮮へ移出高	日本内地へ移出高	計		
二八七、四二〇	一	一〇、一〇〇	九一、三五四 <small>千斤</small>	一〇六、六三五 <small>千斤</small>		
一七三、〇八六	一〇、〇〇〇	一	一五、二八一 <small>千斤</small>	一〇、一〇〇		
一五九、四四四	二、三七一	一	四、〇〇〇	一四、〇〇〇		
八三、七一	一	一	四、〇〇〇	二、〇四、七三八		
三、一、七三五	七四、〇〇三	一	一〇、一〇〇	二〇、四、七三八		
計	七、一、六三二	一〇、一〇〇	九一、三五四 <small>千斤</small>	一〇六、六三五 <small>千斤</small>		

(三) 昭和五年度台湾塩移輸出高及島内消費見込高調

區分	天日塩	煎熬塩	粉碎塩	計	備考
日本内地へ移出高	二五、一三九	一五、三〇〇	—	一三〇、四二四	煎熬塩(一四二〇)は昭和四年度賣渡済ニシテ、昭和五年度引渡見込
朝鮮へ移出高	一〇、〇〇〇	—	—	一〇、〇〇〇	
露領沿海州方面へ輸出高	—	(四、五〇〇) (一四二〇)	五、四三六	九、九三六	
島内消費高	七、〇〇三	三、〇八四	—	七三、〇八七	
翌年度へ持越高	三一〇、八七四	一六、六四〇	—	三二七、五一四	
計					

(四) 昭和五年度台湾ニ於ケル塩田面積、塩生産見込高調

年 度	種 類	塩 田 面 積			塩 の 数 量		
		年度始ノ既設塩田	年度内増減見込	年度末現在見込	前年度より持越高	当年生産見込高	計
昭和五年度	天日塩	二九五、七〇四	—	二九五、七〇四	二八七、四二〇	二一九、五八〇	五〇七、〇〇〇
	煎熬塩	一五六、三〇五	—	一五六、三〇五	一五、九四四	二四、〇〇〇	三九、九四四
	計	二九一、〇〇九	—	二九一、〇〇九	三〇三、三六四	二四三、五八〇	五四六、九四四

備考

本表塩田面積中右傍数字ハ總面積左傍数字ハ實効面積ノ不ス

計	粉 碎 塩	煎 熬 塩	並 等 塩	上 等 塩	品 種
三六〇五	二九三六	一八六五	一七〇九〇	一五三四四	前年度 持越 見込高
二〇三三五		三〇〇〇	一七、五二〇	一〇二、七六五	本年度 生産 見込高
五六一三〇	二九三六	四八六五	三六、八五〇	三六、一九九	計
七五五六		四三六	三六、五八	三六、〇	島内 需要
一〇〇〇〇				一〇、〇〇〇	島内 移出
一五、三三六	二九三六	一三、四〇〇			露領 面輸出
三三六〇			三三六〇		内地 工業原料
一五、三八〇		一五、三〇〇	七、五〇〇	六六、〇〇〇	内地 移出 可能高
二七、三〇二	二九三六	三〇、〇二六	二四、六七八	一一、六三二	計
三〇、八九九八	—	一八、六三九	一三六、八三二	一五三、五二	七年度 持越見込

(五) 昭和六年度台湾塩受拂見込高 (單位千斤)



費  
目  
種  
別

(内臺灣鹽生產費)

天  
日  
鹽

煎  
熬  
鹽

昭和四年度

昭和五年度  
(見込)

昭和四年度

昭和五年度  
(見込)

原料鹽代

燃料代

鹽田器具機械  
修繕費

勞銀

鹽運搬費

事務費

資本利子

器具機械費

1

1

一七  
厘二

一八〇、五

九、二

七、六

六一、三

一六

(見込)

一五  
厘五

一八〇

七、七

五、五

六三

一五、五

厘

四四二

一八

一五六

二三

二二六

八一

五一

(見込) 厘

四四二

一九

一五六

二三

二三三

八七

五六

賠償平均金	計	雜費
三六〇	三〇九	一七厘二
三四一	三〇五	一七厘八
一、四〇九	一、一六八	一五厘
一、四〇〇	一、一七〇	一五厘

(七) 昭和四年度臺灣島内消費鹽販賣高調

鹽ノ種別	販賣高	島内人口一人當消費高	摘要
天日鹽	六一、五三七、二五九斤	一三斤	昭和四年度末島内人口四、五五六、四六一人
煎熬鹽	二、二一八、二九八	一	
計	六三、七五五、五五七	一四	

備考

(一) 販賣高ハ特別用途鹽ヲ控除セサル總計ナリ

(二) 特別用途鹽ノ用途別販賣高左ノ如シ

用途	販賣高	計高	摘要
天日鹽	二、〇〇七、九〇〇斤	二、〇〇七、九〇〇斤	醬油醸造用
煎熬鹽	四、五三、五〇〇斤		
計	二、〇〇〇	二、〇〇七、九〇〇斤	醬油醸造用
計	四、五三、五〇〇	四、五三、五〇〇	味噌製造用

魚類及海獸類 鹽藏用	100,000	100,000	100,000
獸皮保存用	33,000	22,900	100,000
蠶業用	1,050,000	1,050,000	1,050,000
濾水器用	40,000	40,000	40,000
煎熬原料用	6,348,000	6,348,000	6,348,000
計	10,095,400	153,000	10,248,400

(八) 現行賠償價格 (臺灣) (昭和五年四月一日改正) 單位百斤當

區分	上等散鹽	並等散鹽	煎熬散鹽
臺中州一圓	520 厘	460 厘	1 厘
臺南州 (臺南市、新豐、新化兩郡ヲ除ク)	360	290	1
臺南州臺南市新豐郡、新化郡及高雄州	390	320	1,400

(例) 現行賣額價格 (臺灣) 昭和六年四月一日單位百斤

煎熬鹽 六圓六十七錢

上等鹽 四圓五十錢

並等鹽 四圓十七錢

食鹽小賣人ハ前項ノ價格ニ專賣局長ノ認ムル運賃ヲ加ヘ賣捌クコトヲ得  
專賣局長ハ左記用途ノ食鹽消費者ニ對シ一箇ノ買受數量六千斤以上ニ限り下記定  
價ヲ以テ賣捌クコトヲ得但シ買受人ノ費用ヲ以テ食鹽ヲ變性セシムルコトアルベ  
シ

一、石鹼製造用

醬油醸造用

味噌製造用

煎熬鹽 四圓二十七錢

上等鹽 二圓九十三錢

魚類及海獸類鹽藏用	並等鹽	二圓三十七錢
獸皮保存用鹽種用		
澆水器用		
二、曹達工業用	並等鹽	五十二錢
三、窯業用	並等鹽	九十五錢
四、再製鹽用	並等鹽	八十錢
五、煎熬鹽用	上等鹽	七十二錢
	並等鹽	五十五錢

汚損鹽又ハ粗惡鹽ノ價格ハ專賣局長隨時之ヲ決定ス

(H)昭和六年度内地移出鹽積出費

一、煎熬鹽

區分	八十斤入 一俵當	實量百斤當	摘要
荷造倉積賃	三〇、〇	三六、八	荷造賃二二厘 倉積賃八厘
庫出ヨリ港口迄ノ運賃	一一、五	一五、三	倉出賃四、五厘 舟艇賃八厘
港口ヨリ汽船積込迄ノ運賃	四一、〇	五〇、三	戎克賃三〇厘 船内人夫賃一二厘
積込地積入賃	一〇、七	一三、一	運河倉入一俵ニ付一錢七厘 總數ノ六割三分(昭和四年度實績)
小計	九四、二	一一五、五	倉入スルモノトス
諸掛			全部原鹽ニ負擔セシム
計		一一五、五	

備考

積出場所 安平  
 積出豫定數量 一五、三〇〇、〇〇〇斤

區分	二、上、並等鹽	
	實量百二十斤入一俵當	實量百斤當
麻袋銷却費	二二、六	一八、八
麻袋洗濯	一一、八	九、八
修繕運賃	八、二	六、八
荷造費	四三、〇	三五、八
倉出ヨリ港口迄ノ運賃	一〇六、八	八九、〇
港口ヨリ汽船積込迄ノ運賃	一九二、四	一六〇、二
小計		
積込雜費		一四、七
諸掛		三一、〇
計		二〇五、九

摘要

麻袋一枚(百二十斤入)二三四厘加工費三七、六厘運賃二二、四厘計二九四厘ノ十三回使用

昭和四年度ノ實績ニ必要程度ノ零筋浸染費ヲ見込ム  
 昭和四年度前三年平均實績ニ基キ査定シタル金額ヲ一億三千七百五十萬斤ニテ除シタルモノトス

(出) 臺灣昭和四年度鹽業豫算決算額

(1) 收支差益

収入	二、三四六、九〇六 圓
支出	二、二八三、六四〇
差益	六三、二六六
支出ニ對スル歩合	二、七七%

(四) 支出内譯

經常部	二、二一九、四九二 圓
俸給	六七、八五一、二五〇
專業費	七六七、八七九、七四〇

購買費	一、三八三、七六一
臨時部	六四、一四七、四〇〇
事業費	三、二二一、四〇〇
災害費	六〇、九二六、〇〇〇
總計	二、二八三、六四〇、一〇〇

關東州

(一)沿革概要

遼東半島ハソノ沿岸至ル所干潟多ク製鹽ニ對スル天恵ノ好適地ニシテ從テ製鹽ノ起源ハ遠ク黃帝ノ治世既ニ遼河北東ノ地ニ於テ海水ヲ煮熬シテ鹽ヲ製セリト稱セラル此等清朝康熙以前ニ於ケル製鹽ハ總ベテ煎熬法ニ依ルモノニシテ今日ノ如キ天日製鹽ハ康熙年間（西曆自一六六二年至一七二一年）天主教ノ一傳教師ガ傳ヘシヲ以テ嚆矢トセララル、滿洲ニ於テハ當時遼東ニ於ケル荒蕪地ノ開墾ノ爲メ移住シ來レル山東直隸地方民ニ依リテ傳播セラレタルガ如シ即チ同治元年（西曆一八六二年）ニ蓋平管内二道溝地方ニ鹽田ノ開設ヲ見タルヲ初メトシ同四年貔子窩地方ノ鹽田開設トナリ漸次遼東半島沿岸一帯ニ廣マルニ至レリ然ルニソノ後日清ノ戰禍ニ加ヘテ露國ニ此ノ地ヲ租借スルニ及ビ支那方面ニ輸出サルル鹽ニ對シ重稅



ヲ課シ其ノ結果漸次其ノ販路ノ梗塞ヲ來セリ越ヘテ明治三十七八年戰役ノ當時ノ如キハ貔子窩、普蘭店ヲ除クノ外多クハ荒廢ニ歸シ就中五島地方ノ如キハ最モ慘狀ヲ極メタリ

平和克復後半島ガ我施政下ニ屬スルニ至リテ再ヒ勃興ノ機運ニ向ヒ昭和五年度鹽田面積約七千町歩產鹽高見込五億二千二百七十七萬斤トナルニ至レリ

### (二) 生産狀況

關東州ノ我施政下ニ移ルニ及ビ邦人ノ鹽田開設ノ出願スルモノ多ク明治三十九年三月關東州民政署令第八號關東州鹽田規則及第九號鹽田規則施行規則ヲ公布シ專ラ既設鹽田ノ經營者主トシテ支那人ノ使用權確認ヲ行ヒ新タニ鹽田ヲ開設セントスル者ニ對シテハ土地ノ無償貸付ヲ爲シ貸付面積ハ特別ノ場合ヲ除キ一人百町歩<sup>以內</sup>トシ面積ノ廣狹ニ依リテ完了期間ヲ規定シ鹽田使用ニ對シテハ何等ノ賦稅ヲナサ

ズ成ル可ク大規模ノ經營ヲ獎勵シタリ爾來逐年發達シ昭和四年ノ發達ヲ見ルニ邦人ノ經營ニカカル反別五千三百六十七町其製鹽高二億七千六百十二萬斤餘(總量ノ六割七分餘)ニ對シ支那人ノ夫ハ一千六百九町步其ノ製鹽高一億三千八百七十一萬斤餘(總量ノ三割三分餘)合計六千九百七十六町步製鹽高四億一千四百八十四萬斤餘ニ達スルノ狀況ナリ邦人ノ經營中殆下其大部分ハ大日本鹽業會社ノ經營ニシテ其ノ反別四千五百七十四町步ヲ占メ其ノ他ハ東洋拓殖會社ノ六百三十四町步東洋捕鯨會社ノ四十五町步其ノ他邦人(六名)百十四町步ナリトス

### 附記

#### イ、芒硝

關東州鹽田ニ於テハ各谷間氣溫ノ低下ヲ利用シテ鹽田副業トシテ晚秋製鹽終了後ノ殘溜苦汁及鹹水ヲ用ヒテ芒硝(硫酸曹達  $\text{Na}_2\text{SO}_4$ )ヲ採收ス

芒硝ノ主産地ハ碓子窩鹽田ニシテ最近（昭和二、三年）ニ於ケル使用鹽田面積及生産額ハ總面積ノ約三割餘ニシテ粗製芒硝六百萬斤乃至九百萬斤原産地ニ於ケル價格一萬圓乃至一萬五千圓トス

芒硝ノ用途ハ硫化曹達硝子、人造絹糸、鞣皮、肥料、一般藥品等ニ使用セラレ當州産芒硝ハ舊來鞣皮、肥料用トシテ北滿（長春）及山東（芝罘、威海衛）方面へ販賣セラレ又内地ニ硝子製造原料トシテ輸出シタルコトアレドモ其ノ額僅少ナリシガ最近大連ニ昌光硝子會社ノ設立セラレシ以來硝子製造原料トシテ多大ノ需要ヲ喚起シ大日本鹽業會社ハ同社ト契約シテ同社一ケ年ノ使用量無水芒硝二千四百噸ノ二分ノ一ノ供給ヲ引受ケ採取シツツアルガ僅カニ六、七百噸ヲ供給スルニシギズ

右ノ外鹽田芒硝ノ新用途トシテハ大連大和染料會社ニテ鹽田芒硝ヲ原料トシテ硫

化曹達ノ製造ヲ企畫中ナレバ將來相當多量ノ需要アル見込ナリ

又内地方面ニ於テハ智利硝石ヨリ硝酸ヲ製造スル際其ノ副産物トシテ芒硝ヲ得ラレタリシガ最近硝酸ノ製造ハ空中窒素固定法ヲ採用スル處アル爲メ芒硝ノ製造額ハ漸次減退ノ傾向ニアリ從テ將來鹽田芒硝ノ需要ハ内地方面ニマデ進出セララルベシ

#### ロ、特殊鹽

特殊鹽トハ關東州鳳鳴島ノ一部面積約百六十町歩ヨリ生産セラルル天日鹽ノ一種ニシテ色相赤濁色、透明ニシテ鹽化曹達普通ノ天日鹽ト比シ約一〇%良好ニシテ九五%以上ナリ結晶粒塊狀ヲ呈ス之ガ生成ノ原因未ダ詳カナラズ最近關東廳鹽業試驗場ニ於テ人工的作成ニ成功セリ之ガ實用化ニ就キテ更ニ目下研究中ナリ

#### （三）販賣狀況

州鹽ノ賣買取引上特ニ制限アルモノハ大藏省專賣局轄ノ分ト内地工業用鹽ニシテ專賣局分ハ同局ノ指令ニ依ル特定ノ受命者ノ取扱フモノニシテ工業用鹽ハ工業家自ラ當州ノ鹽業者ト直接商談ヲナスモノナルガ之ニ付キテモ豫メ專賣局ノ許可ヲ受ケ特定ノ指令ニ依ルベキモノトス斯ノ如ク本邦人ノ經營ニヨル産鹽ハ本邦人ノ手ニヨリテ輸移出セラルルヲ以テ關東州内市場ニ於テ賣買サルルハ支那人製造ニ係ル鹽ニ限ラル此等支那鹽ハ一旦買手即チ邦人ノ手ニ渡リテ後夫々需要先ニ仕向ケラルルノ狀況ナリ

州鹽ノ販路ハ現在主トシテ内地及朝鮮ニシテ其他露領沿海州勸察加樺太香港等テリ而シテ青島鹽ハ其ノ積込費州鹽ニ比シテ著シク廉價ナルヲ以テ州鹽ハ内地又ハ朝鮮其ノ他ノ市場ニ於テ常ニ青島鹽ニ壓倒セラルルノ傾向ニアリ關東廳ニ於テハ是等ノ事情ニ鑑ミ工業用鹽及漁業用鹽ノ輸出獎勵金（昭和五年度豫算三萬二千八

百圓）ヲ交附シ辛ジテ是等外鹽ニ對抗シツツアリ然ルニ朝鮮ニ於テハ昭和五年四月一日ヨリ鹽ノ管理制度ノ施行セラルルニ當リ本年度ヨリ朝鮮向輸出鹽ニ對シテハ獎勵金ヲ交附セザル事トナレルヲ以テ今後ハ朝鮮向輸出ハ相當困難ナルモノアルベシ

前記内地及朝鮮ニ次グベキ販路ハ沿海州勸察加及樺太方面ナルガ是等ハ漁業用鹽ヲ主トシ從來此ノ方面ハ英國、西班牙、埃及等ノ諸外國鹽ノ需要地方ナリシガ昭和二年大日本鹽業株式會社ハ工場ヲ双島灣ニ設置シ粉碎洗滌鹽ノ製造ヲ開始セリ而ルニ製品ハ埃及鹽ヲ凌駕シ西班牙鹽ト拮抗シ價格割安ナル關係上漁業家ノ嗜好ニ投ジ需要ハ年次増加ノ狀勢ニ在リ此ノ方面ノ販路ハ前途甚ダ有望ナルガ如ク當會社ハ目下新ニ鑿子窩ニ新工場（能力四千萬斤）ヲ増築中ナリ

樺太ニ於テハ鹽ノ消費額少ケレドモ近年再製鹽ヲ希望スル者多ク現時價格割高ナ

ル爲需要ノ増加ヲ見ザルモ價格ノ如何ニヨリテハ今後輸出増進ノ可能性ヲ有ス  
 上記ノ外販路トシテ香港澳門地方アリト雖モ同地方ノ輸出ハ斷續的ニシテ未ダ確  
 實性ヲ有スルニ至ラズ

附表 (一) 關東州塩(天日塩)生産及販賣調 (内地專賣局調)

年度	鹽田		鹽		鹽田		州内消費及輸移出高			内地輸入塩價格					
	面積	生産高	平均	生産高	一町歩	平均	州内	内地	朝鮮	其他	計	賣買	船采	門司	購買
大正十四年度	六,二二〇町	四一六,四三七	六六,八四四	二二,九二六	千斤	八〇,八八六	一三,九二二	一〇,八三五	三三,五五八	三,八五	六,八九	一九一	一一二〇		
昭和元年度	六,二五二	五〇一,七二四	八二,九七一	二二,七〇四	千斤	一三六,七四〇	一〇,九六六	一〇,四四八	三三,七八八	二,五二	六,七八	一八二	一,一〇〇		
二年度	六,九七七	三九二,〇九〇	五六,一九八	三五,五四八	千斤	七〇,五三五	一三,六七九	四,四八	二八,四〇二	二,〇四	六,一一	一八二	一,〇二〇		
三年度	六,九七六	四一四,四八五	五九,四四六	三五,八六六	千斤	八九,五三三	一三,六四九	八,二二	三四,七三五	一,八九	六,三一	一七三	一,〇二〇		
四年度	六,九七六	四一四,八四二	五九,四四六	四〇,九五八	千斤	一五〇,三三九	一三,〇五二	一〇,二九〇	四一,九〇九	一,三四	六,三四	一七三	一,〇〇〇		
五年度			五九,四四六	四〇,九五八	千斤	一五〇,三三九	一三,〇五二	一〇,二九〇	四一,九〇九	一,三四	五,八三	一五四	九四〇		



口再製並加工塩

年別	向地		昭和元年	大正十四年
	本市内地	朝鮮		
同四年	三、二四三	一、四〇七	六、〇〇〇	六、五四八
同三年	三、〇〇〇	一、四〇七	六、〇〇〇	六、五四八
同二年	三、〇〇〇	一、四〇七	六、〇〇〇	六、五四八
計	三、〇〇〇	一、四〇七	六、〇〇〇	六、五四八

備考

前二表本市内地欄右側数字ハ専賣局購買塩  
左側数字ハ工業家ノ自己輸入塩トス

(三) 昭和四年度關東州塩移出高及州内消費高調

區分	天日塩	再製塩	粉碎洗滌塩	洗滌塩	計
日本内地ハ輸出高	一、二四、九九六	三、〇〇〇	一、〇〇〇	二、二四三	一、五〇、二三九
朝鮮ハ輸出高	一、二〇、五二二	一、	一、	一、	一、二〇、五二二
勸察加方面ハ輸出高	一、	一、	一、	一、	一、
樺太ハ輸出高	一、	一、	一、	一、	一、
香港其他ハ輸出高	六三、九〇〇	一、	一、	一、	六三、九〇〇
州内敷銷高	五八、六三七	二、二六一	七〇	一、	四〇、九五八
小計	三、四八、〇四五	九、三〇八	三、二七四	二、一八一六	四一、一、九〇九
翌年度ハ持越高	四八三、一九七	二、七六四	三、四、三四五	一、	五二〇、三〇六

(四) 同 五年度見込高調

品名	天日塩	再製塩	粉碎洗滌塩	洗滌塩	計
日本内地輸出見込高	六、三九一、八一六	八、九〇七	三三、二七五	二九、四〇〇	六八五、〇九八
朝鮮輸出見込高	一、二七八、六〇〇	—	—	—	一、二七八、六〇〇
朝鮮加南島輸出見込高	—	—	—	—	—
樺太、輸出入見込高	—	—	—	—	—
香港其他輸出見込高	五九、八五五	—	—	—	五九、八五五
州内販銷見込高	二五、八八六	三、五四二	—	—	三、八、四九八
小計	八三七、五一七	一、一〇六、四四	七六、三四五	三〇、〇〇〇	九五五、九二六
翌年度見込高	三、〇六九、五九九	四、二五四	一六、六三八	一四、七〇〇	三、四二、五五一

備考

日本内地輸出高ハ専賣局ノ輸入命令数量ノ如何ニ依リ決定スルモノナリ故ニ本表ニハ日本内地ノ輸出高ハ第一表ノ内地ノ輸出可能見込高ヲ翌年度見込高ハ第一表六年度表前年度ヨリノ持越高ヲ掲タルコトトシタリ

(五) 昭和四年年度關東州塩田面積及塩生産高調

經營者別	天日塩		再製塩		粉碎洗滌塩		洗滌塩	
	塩田面積 町	塩生産高 千斤	一町歩当 生産高 斤	原料 使用高 千斤	原料 使用高 千斤	原料 使用高 千斤	原料 使用高 千斤	
大日本塩業會社	四五七四	三三九、〇九八	五二、三三三	—	四六、七二六	四〇、六三三	二一、六六七	一八、九二八
東洋拓殖會社	六三四	二〇、〇一五	三一、五七〇	一、五一四	—	—	—	—
宮田仁吉 等五人	一一四	一四、四六六	一、二八三	—	—	—	—	—
邦人計	五三六八	三、七六一、二二九	—	二、二〇九	七三〇	四六、七二六	二一、七六六	一八、九三八
支那人	一六〇九	一三八、七二三	八六、二一一	—	—	—	—	—
合計	六九七六	四、一四八、四二二	—	二、三三六	七、〇一一	四六、七二六	二一、七六六	一八、九三八

(六) 関東州ニ於ケル塩田面積塩生産消費及輸出可能見込高調(単位) 其ノ一(昭和五年度)

種 類	塩田面積		塩ノ数量		州内消費及輸出見込高			
	年度始ノ 既設塩田	年度末 現在見込	前年度ノ 平均高 水産見込高	計	消費 原料 加工 見込高	朝鮮 其他 内地 輸出 見込高		
天日塩	六,九七六	六,九七六	四八三,一九七	四四一,四七〇	九二四,六六六	八七,一五〇	一八七,七五五	六,一三九,七六
再製塩	一	一	二,七六四	九,三〇〇	一,二〇,六四	二,五四二	一,〇一五	八,五七七
粉碎洗滌塩	一	一	三,四三,五四五	四二,〇〇〇	七,六三,四五	七〇	四,三〇〇	三三,三三五
洗滌塩	一	一	一	二,〇〇〇	二,〇〇〇	一	六〇〇	二五,四〇〇
計	六,九七六	六,九七六	五二〇,三〇六	五三二,七七五	九,二四,六六六	三,八四九,八	八七,一五〇	二,三三,三三〇
								六八,五〇九,八
								一,一三三,〇七六

備考

試験塩田ノ面積二十九丁五反一畝ハ本表ノ外トス以下同ジ



其、二（昭和六年度） 單位：千斤

種 類	天日塩	粉砕玻璃塩	洗 滌 塩	再 製 塩	計
塩田面積	六、九九二	一	一	一	六、九九二
本年度製塩 見込高	四六八、一〇〇	四〇、〇〇〇	三一、〇〇〇	七、一〇〇	四六八、一〇〇
前年度ヨリ 増減見込高	四八二、四八一	三三、六九八	五、三三四	二、五二二	五二四、三三五
内地以外、輸送出 州内加工再製原 料用及び内銷 高	二二一、六〇〇	三〇、〇〇〇	一	四、四〇〇	二五六、〇〇〇
翌年度へ 増減必要高	七四、〇〇〇	二二、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	一四五、〇〇〇
差引内地、輸 出可能見込高	六五四、九八一	一八、六九八	三一、三三四	四、七二二	七〇九、七三五

備考

天日塩ノ内地へ輸出可能見込高ハ其ノ一割ハ減減高トシテ控除セラレバキモノトス

(七)昭和五年度關東州天日鹽百斤當生產費調

區分

日本  
日 本 人 經 營 ノ 分  
大日本鹽業會社 東洋拓殖會社

支那人經營ノ分

鹽田修理費

二六 厘

一五 厘

一〇 厘

器具機械費

一五

一四

六

鹽 夫 賃

九一

一〇二

八三

鹽 蓋 費

一二

一二

一〇

資 本 利 子

五〇

一五六

一八

事 務 諸 費

五〇

七四

五

雜 費

一一

五

七

計

二五五

三七八

一三九

備考

東洋拓殖會社ハ一部製鹽不能ノ鹽田アルト秋季採鹽休止ノ爲産額ヲ減シ生産額ノ嵩上ヲ來セリ

(八)昭和五年度關東州再製鹽及加工鹽百斤當生産費調

費目	再製鹽 東洋拓殖 會社ノ分	粉碎洗滌鹽 大日本鹽業 會社ノ分	洗滌鹽同上
原料鹽代	二〇〇 厘	二〇〇 厘	二〇〇 厘
再製加工缺減	二〇	四〇	三〇
燃料代	五五八	一	一
勞銀	九五	五七	五〇
建物器具機械費	四五	二九	二五
動力費	五	二九	二五
事務諸費	三〇	一〇	一〇
包裝費	三一三	二九〇	散鹽船積一
資本利子	一〇八	八〇	八〇

雜

費

二〇

五

五

計

一、三九四

七四〇

四二五

(九) 昭和五年二月以降関東州天日塩賣買價格調

主要産地	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	六年
普蘭店	九二	九九	九三	八〇	六九	七五	七七	八三	八四	八四	一	一
五島	一	一	一	一一五	一	一	八八	九八	一一七	一一七	一	一
夾心子	一	一五六	一四〇	一一七	九二	八八	一一三	一一三	一一八	一一一	一	一
東光藤	一	一八〇	一五一	一二四	七二	九四	一〇一	一一一	一一一	一一六	一	一
碧流河	一	一二一	一〇七	一一三	八九	九五	八〇	八三	七四	七二	一	一
双島湾	九七	九六	八七	九九	七四	八三	九六	一一三	一一一	一一七	一一九	一〇六

備考、本表、塩田工場賣散塩百斤當平均價格ニシテ上等塩ハ  
 三匁乃至四匁高トス、單位ハ厘

(十) 関東州天日塩積出賃額 (百斤當)

計	雜費	本船積込諸掛	貯塩場賃費	船又ハ運揚本船運賃諸掛	貯塩場ノ賃費	塩田ノ成元積込ノ諸掛	費目	
							大日本塩業會社	東洋拓殖會社
二〇〇	二〇	七〇	二五	六〇	二五	貯塩場 美島	大日本塩業會社	二八
二一三	三〇	六〇	二〇	九五	二八	貯塩場 西甲島	大日本塩業會社	二八
二四三	四〇	六八	三〇	七〇	三五	貯塩場 大長山島	大日本塩業會社	二八
二〇四	二五	四〇	二八	八三	二八	貯塩場 床頭	大日本塩業會社	二八
一七二	二〇	三四	一	九〇	二八	沖積 五島	大日本塩業會社	二八
一二二	一五	三二	一	五七	一八	沖積 双島	大日本塩業會社	二八
一七八	一〇	四五	二五	七〇	二八	貯塩場 城子也	東洋拓殖會社	二八
一一〇	一〇	三二	一	四〇	二八	沖積 登砂河	東洋拓殖會社	二八

備考 東洋拓殖株式會社再製塩積出賃ハ左ノ通りトス

工場ヨリ埠頭迄搬出費 九一  
 埠頭経費 一五  
 本船積込費 三五  
 雜費 一〇  
 計 一五一

(二)大日本鹽業株式會社營業報告

(自昭和五年七月至同年十二月)

(1)貸借對照表

借方(資産ノ部) 貸方(負債ノ部)

科目	金額	科目	金額
未拂込資本金	一九七、六二五、〇〇圓	資本金	四〇〇、〇〇〇、〇〇圓
營業權	四二六、五四八、〇〇圓	使用人退職手當積立金	三〇、五五四、〇〇圓
鹽田代價	三、一一二、八七七、三一圓	臺灣總督府勘定	二、三六、三〇七、一七圓
運輸設備	七三、八八二、五七圓	入金	八〇、三九八、三〇圓
地所家屋代價	三一五、七一四、七〇圓	拂手形	七二〇、〇〇〇、〇〇圓
機器什器代價	一二八、九九九、四七圓	認金	六六、八〇六、〇五圓
船舶代價	一一、八五六、五七圓	受金	七〇、九四、八三圓
有價證券	三八四、五四六、一五圓	拂未済金	二七、三五八、六七圓

滿洲貯鹽勘定	二一六、八八一五八	未拂配當金	二、七四二二九
貯藏物品	八四、五一九三六	保證金	二、五〇〇〇〇
取引先勘定	二二二、六八三〇三	當期純益金	一四三、二一六一四
受取手形	二二一、一三二六〇		
貸付金	五九、一七五〇八		
假拂金	二八、二一二二三		
受取未済金	一七九、九八五六〇		
出張所勘定	六一、八四八七九		
預金及現金	四九九、〇五五二七		
前期繰越損金	九一、四三四一四		
計	五三一六、九七七四五	計	五三一六、九七七四五

(四) 損益計算表

當期總益金	一、八四〇、二五八〇六
當期總損金	一、六九七、〇四一、九二
差引當期純益金	一四三、二一六、一四

(五) 利益金處分案

當期純益金	一四三、二一六〇一四
前期繰越損金	九一、四三四、一四
差引利益金	五一、七八二、〇〇

右利益金ヲ後期へ繰越トス

三、樺太及南洋群島

樺太ニ於テハ鹽ノ生産ナク主トシテ漁業鹽ノ需要昭和四年度ニ於テ約三千六百萬斤アリ多クハ外國鹽ノ輸移入ニ待ツノ狀況ナリ

昭和四年度鹽輸移入仕出地別

地名	數量
關東州	五、二五四 千斤
英吉利	一、一六六
西班牙	一、八九四
埃及	一七、九四一
北米合衆國	六
計	二六、二六一



内地 其他  
合 計

九、六七八 千斤  
三五、九三九

島内ニ於テ樺太鹽業株式會社（生産高約三百三十萬斤）ノ漁業鹽ヲ目的トセル再  
製鹽ノ製造ヲ開始シタレドモ格安ナル外國輸入鹽ノ爲ニ壓倒セラレ目下經營困難  
ニ陥レリ

南洋ニ於テハ需要極メテ少ク從ツテ生産殆ドナシ

13

昭和六年一月

鹽ニ關スル參考資料

第一、青島鹽日本輸入ニ關スル日支交渉ノ概要

(附) 青島鹽輸入ニ關スル條約及協定

第二、臨時財政經濟調査會答申摘錄

第三、人口食糧問題調査會ニ於ケル鹽ニ關スル意見

拓務省殖産局